

平成 28 年度 第 2 回地方分権改革の旗手会議 概要レポート



伊藤正次 地方分権改革有識者会議 提案募集検討専門部会構成員による
基調講演後の集合写真



平成 29 年 1 月 27 日
内閣府地方分権改革推進室

会議の状況

松本内閣府副大臣挨拶

- 各地域が、地域に根ざした地方分権改革を進め、地域が良くなったと言われる成果を挙げるのが重要。
- 28年提案募集では、300件あまりの提案のうち、4分の3以上が実現・対応に至ったが、各旗手の皆さんの協力に感謝。また、29年提案も、旗手の皆さんからアイデアをいただきながら、新しい取組を予定しており、心強い思い。
- 地方分権改革を難しくとらえず、地域の課題の解決策として柔軟に対処していただきたい。その後押しを国が是非やらせて頂きたい。また、地域の旗手として近隣の自治体にも地方分権の重要さを伝えていただきたい。



講話（内閣府地方分権改革推進室 境次長）

- 地方分権改革は「永久運動」であり、改革の推進力は住民サービスの向上にある。
- 地方の取組を支援するため、内閣府では3つのツール（①地方分権改革事例集、②地方分権改革・提案募集方式ハンドブック、③提案募集方式データベース）を用意しており、それぞれ「住民の声」「知恵と工夫（ノウハウ）」「積み重ね」の重要な要素が盛り込まれている。ぜひ積極的に活用いただきたい。
- 分権の長年の懸案事項（農地転用、地方版HW）が解決される一方で、一部には「分権疲れ」や推進力の衰えといった声もある。また、国の役割が強調される場面（大規模災害や基地問題等）もある中で、今こそ、地方分権改革の推進力を高めていく必要がある。
- 地方分権改革の推進力となるのは「住民サービスの向上」である。「住民の喜びの声」を集めて分権の風を起こし、この風が見えるように、旗手が分権の旗をはためかせて分権改革の道しるべとなっていただきたい。
- 財政や人員等の制約が増す中で、分権に伴う責任も果たしていかなければならないという厳しい状況に直面するかもしれないが、こういう時こそ、仲間を作って連携・共有していくことが有効。そのために旗手会議をおおいにご活用いただきたい。



地方分権改革推進室からの説明

1) 平成 28 年提案募集方式の取組状況等と今後に向けて（五味参事官）

- 平成 28 年提案募集方式について対応状況、主な成果等を説明しました。
- 前回旗手会議で出た旗手からの要望への対応として、事前相談の期間延長や提案募集開始時期の前倒しを検討していることを説明しました。
- 今後の主な課題として市町村からの提案の一層の掘り起こしの必要性に触れ、分権室としては、研修会・説明会の充実・強化やハンドブックの作成の他、1 市町村 1 提案運動を推進していくこと。を説明しました。



2) 平成 29 年提案募集に向けた情報発信・普及活動の充実について（岩間参事官）

- 平成 29 年提案募集に向けた情報発信・普及活動として、地方研修会、全国ブロック説明会、地方分権改革・提案募集方式ハンドブック、地方分権改革シンポジウムを紹介しました。
- 旗手の皆様へのご願いとして3点(①提案の掘り起こしに向けた積極的な研修会、説明会の開催、②各自治体の勉強会用としてハンドブックを配布希望する場合の連絡、③シンポジウムの参加の呼びかけ)を説明しました。
- ハンドブック作成に携わった猪阪調査員から、自治体職員の立場から、ハンドブックの意義やポイントを説明しました。



3) 提案募集方式データベース等について（小島補佐、門井主査）

- 平成 29 年提案募集に向けた情報発信事業として、「現行規定で対応可能な提案の一覧」及び「過去3年分の提案のデータベース化」について取組状況を報告しました。
- これらの取組が始動したのは、旗手からいただいたニーズがきっかけの一つであり、質疑応答では、活発な雰囲気の中、建設的なアイデアが多数のメンバーから寄せられました。



施策分野別意見交換

1) 分権室職員と旗手との意見交換

前回旗手会議で要望のあった「施策分野別の内閣府との意見交換」を初めて実施しました。28年提案募集の主要テーマである「地方創生」「子ども・子育て支援」について、先ず、内閣府の担当職員から提案の調整状況や苦労した点などについて説明があった後、各自治体の取組状況や今後の課題など、分権室担当職員との意見交換を行いました。

①地方創生—地域資源の利活用—



②子ども・子育て支援—地域の実情に応じた支援—



2) 旗手同士の意見交換

分権室職員との意見交換を踏まえ、各自治体における事業担当者との協力体制のあり方についてグループディスカッションを実施し、レポートにまとめました。分権室職員からの講評にあわせて、実際にワークショップを実施している松戸市（青砥補佐）より取組状況をご紹介いただきました。



基調講演（首都大学東京大学院 伊藤正次教授（提案募集検討専門部会構成員））

- 提案募集方式は従来の委員会勧告方式と比べて、改革のスピード、柔軟性、個別自治体のニーズのくみ上げという点で優れていること
 - 改革のルーティン化により、改革の前進というプラスの面がある一方で、各府省が様々な対策法を学習してきたこと、提案の「ネタ切れ」感、といった課題も出てきたこと。
 - 改革を持続していくためには、分権の成果をフォローして、さらなる課題の洗い出しに活かすことや、情報発信していくことが重要であること
- など、提案募集の最前線を担われている立場から、旗手の方々に熱い思いをお話いただきました。



閉会挨拶（内閣府地方分権改革推進室 横田次長）

- 旗手会議は国と地方とをつなぐ中核的なものであり、アイデア等があれば旗手会議にて取り上げて頂きたい。
- 今回の会議では、地方分権改革・提案募集方式ハンドブックや提案募集方式データベース構築の進捗状況を紹介させていただいたが、これも作業過程において、旗手の皆様から提案を頂いた。今後、使用してみて、改善すべき点があれば頂きたい。
- この春からH29年提案募集が本格的に始まるが、皆さんの現場での問題意識、住民の要望を具体化する、これらをどのように吸い上げて実現していくか。大事なことは、皆さんの自治体の中での取組に対しての環境をどうするか。分権室として、積極的に応援していきたいと考えているので、ご要望等があればご連絡いただきたい。



<会議後>

データベースのデモ操作（任意参加）

- 午前の部の取組報告の続編として、実際に旗手メンバーの手でデータベースを動かす時間を設けさせていただきました。伊藤教授をはじめ、たくさんのメンバーにお試しいただき、大変にぎやかな雰囲気でした。

